



令和元年5月16日

本学の提案課題が2019年度の地球規模課題対応国際科学 技術協力プログラム（SATREPS）に採択

科学技術振興機構（JST）と国際協力機構（JICA）による「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」の選考結果が5月16日に発表され、広島大学が代表となり国内5大学と共同提案する研究課題「パリ協定による2030年目標に向けた高温多湿気候下のインドネシアにおける低炭素アフォードブル集合住宅の社会実装」が採択されました（研究代表者：久保田 徹（広島大学大学院国際協力研究科・准教授））。

SATREPSとは、環境・エネルギー、生物資源、防災および感染症等の地球規模課題の解決を視野に、これら諸課題の解決に繋がる新たな知見の獲得及びその成果の将来的な社会実装（具体的な研究成果の社会還元）を目指し、開発途上国の社会的ニーズをもとに我が国の研究機関と開発途上国の研究機関とが協力して技術協力プロジェクトの枠組みにより国際共同研究を推進するプログラムです。広島大学の提案課題が採択されたのは、これが初めてです。

（<http://www.jst.go.jp/global/index.html>）

本研究では、経済成長の著しいインドネシアで、今後増加が見込まれる中間層集合住宅を対象とし、2国間の産学官連携の下で低炭素技術を共同開発し、基準化などを通じて確実に社会実装することを目指します。具体的には、①気候（2030年時点での都市気候予測等）、②人体の快適性と健康性（居住者の熱的快適性基準と健康等）、③建築（蒸暑地域に特化した低炭素建築技術開発等）、④エネルギー（住宅内のエネルギー消費量の実態調査等）の4つのアプローチから研究を実施し、研究成果を同国の国家規格や法的拘束力のある建築規制へ反映させることを目指します。



インドネシアのTegal市に建設する低炭素集合住宅

【お問い合わせ先】

広島大学大学院国際協力研究科 久保田 徹
Tel : 082-424-6925 FAX : 082-424-6925
E-mail : tetsu@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 1枚（本票含む）